

## 令和5年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和5年10月12日（木）

地 区 植苗地区

会 場 植苗ファミリーセンター

### <意見交換>

○市民自治推進主幹 それでは、要望番号1番、IRの誘致についてです。

鈴木知事殿には、今回の選挙戦で大多数の支持を得られたこと、地域住民一同心からお祝い申し上げます。

苫小牧市が数年前から申請しておりますIRを受け入れていただき、苫小牧市の発展と北海道開発振興にも誠に大切な事業であり、知事殿の思いをIR開発にはせ参じていただきますよう、植苗連合町内会一同実現していただくことをお祈り申し上げる次第であります。

次に、市からの回答となります。人口減少と少子高齢化が進む本市においては、IRは新たな雇用の創出や地域経済の活性化に大きく寄与するものであり、北海道の観光産業を発展させるための新しい装置として重要なものであると認識しております。

IRに対する取組展開に向けては、北海道と逐次協議を重ねているところでありますが、今後の誘致活動において植苗地域住民の皆様のお力が必要な場面が生じた際には、ぜひともご協力いただければ幸いです。

続いて、要望番号の2番になります。植苗・美沢地区の市街化調整区域の見直しについてです。

植苗星ヶ丘地区では、平成28年11月に市街化調整区域における地区計画制度を活用して、住宅の建築が可能となる区域を拡大し、現在道営住宅をはじめ、戸建ての住宅が建設されております。

人口減少、少子高齢化が進む中、植苗・美沢地区の人口増加対策や植苗駅周辺の防犯対策の観点からも、星ヶ丘団地周辺から植苗駅までの植苗停車場道線の沿道両側100メートルについて、住宅建設が可能となる区域の拡大を要望します。

また、千歳市へのラピダス進出に伴い、関連企業の立地や従業員の住宅が建設できるよう、道道新千歳空港線から植苗墓地までの国道36号線沿いの両側について、市街化調整区域の見直しについて要望いたします。

市からの回答になります。

星ヶ丘地区の地区計画区域は、平成28年の制度導入後、現在整備中を含め道営住宅29戸、戸建て住宅4戸が建築されており、良好な自然環境を生かした居住エリアとして、今後も住宅等の建設推進が期待されるものと考えております。

植苗駅に続く植苗停車場道線の沿道を地区計画区域へ拡大することについては、今後星ヶ丘地区における住宅新築状況を見据え、関係機関と協議してまいります。ラピダス社の進出に伴い、国道36号沿線への展開も大いに期待されるものとなりますので、民間事業者による土地利用の要

望等を伺いながら、地区計画等の取組に向けてしっかりと対応してまいります。

続いて、要望番号の3番になります。快速列車の苫小牧市への乗り入れについてです。

新千歳空港と植苗駅を結ぶJR快速エアポートのうち数本は、小樽へ乗り換えせずに行けるようになっておりますが、苫小牧や室蘭などの胆振方面にはそのようになっておりません。胆振地域は、白老のウポポイや登別、洞爺湖温泉などの観光地を有しており、コロナが終息した今、南千歳駅から当該地域へのアクセス向上が重要です。

つきましては、苫小牧への経済効果も期待されることから、国や北海道、JR北海道などに働きかけ、快速エアポートが苫小牧や室蘭まで乗り入れるとともに、札幌や室蘭などに通学する学生などのためにも、朝と夕方に植苗駅にも運行できますよう要望します。

市からの回答になります。

JR新千歳駅から苫小牧方面へのアクセス向上につきましては、観光客をはじめとした空港利用者の利便性向上や広域観光の誘客促進に高い効果が期待できるものと考えております。本市としましては、令和2年度からは最重点要望事項に位置づけており、国や北海道に要望活動を行っております。

実現に向けましては、引き続き北海道やJR北海道など、関係機関と緊密に連携を図り、早期実現に向け要望を継続していくとともに、新千歳空港のさらなる発展に向けた機能強化、JR利用者の利便性向上の観点も併せて北海道広域での機運醸成が重要と考えており、地域の方々のご協力もいただきながら取組を進めてまいります。

要望番号の4番になります。カヌー問題の早期解決についてです。

美々川でのカヌー利用について、一部の業者が新植苗橋から下流に乗り入れて、今もなお営業を行っております。市は、業者と複数回にわたり協議を行っていると聞いておりますが、一向に改善されておられません。

市の説明では、団体客の下流への利用は行っていないとのことではありますが、依然として個人客は下流に乗り入れているため、環境への影響が懸念されることから、カヌー問題の早期解決を要望いたします。

市からの回答になります。

カヌー問題につきましては、美々川の自然を守る観点から、これまでも漁業や野火、野鳥への心配など、様々なご指摘をいただいております。市としてもプロジェクトチームをつくり、対応しているところです。

本年6月には副市長とカヌー事業者の代表が面談を行い、新植苗橋の下流域でカヌーの利用をしないことについて改めて申し入れたところではありますが、法的に規制することが難しく、解決に至っていないのが現状です。

市としましては、引き続き粘り強く交渉を続けるとともに、美々川やウトナイ湖の環境保全と観光振興が地域の意向に沿った形で推進できるよう、新たなガイドラインの作成を検討するなど、河川管理者である北海道とも連携しながら、解決に向け取り組んでまいります。

以上です。

○司会 それでは、ただいまの要望事項やその他市政に関しましてご意見のある方は、マイクをお持ちしますので、挙手をお願いします。どなたかいらっしゃいませんか。

せっかくの機会ですので、ぜひご意見、ご質問ございませんか。

ただいまの要望事項に関しましても結構ですが。

この、いただいた要望以外でも結構です。ご意見があれば挙手をお願いします。

ただいまマイクをお持ちします。

○市民 初めまして。・・・と申します。

カヌーの問題が出てきていますので、私、新植苗橋から下には行っていない事業者なのですが、カヌーツアーをやっています。せっかくなので、このカヌーのことにに関して、こちら植苗に住まれている方とかも分からないことがあると思いますので、もし質問等ありましたら。

私、カヌーに関してはすごく詳しいので、お話しできたらいいなと思います。ちょっと意見があったら、私にも質問してもらえればなと思います。

○司会 ただいまカヌーに関しての質問を受けていただけるということでしたが、皆さん、いかがでしょうか。

市長、お願いします。

◎市長 今年、コロナが少し落ち着きつつあって、今年のカヌー利用者の状況はどうだったか教えてください。

○市民 私、観光客相手にカヌー体験をしているのですが、観光客に対しては、昨年までは北海道はどうみん割という事業をやっていたので、それでその制度を使うと、かなりお安く体験をできるという補助金があったので、それで利用客というのは、実は去年のほうが物すごく多かったです。

ただ、プライベートで来られたお客様というのは、今年もそれなりに来たのですが、やっぱりこのコロナ禍で、遊べないけど、外で遊ぶのはいいだろうという人も多かったので、実は昨シーズン、コロナの最中もそれなりに利用していた方は多かったイメージがあります。

◎市長 ありがとうございます。

○司会 その他いらっしゃいませんか。要望事項やカヌーのこと、以外でも構いません。

せっかくの機会ですので、ぜひ要望ありましたら。いかがですか。

今、マイクお持ちします。

◆市民 北町内の・・・と言います、よろしくお願いします。

この植苗の連合会から要望いたしました1、2、3、4に対しまして、いつまで実施するとかという年度が入っていないのですが、大体目標値として何年度ぐらいまでには解決したいとか、そういうような回答いただきたいなと思ひまして。

それと、あと市街化調整区域ですけども、解除について、ラピダスの関係で企業とか住宅とか、千歳もいっぱいになってきているという話もありますので、ぜひとも苦小牧側に誘致していただいてというのが苦小牧市の考えだと思ひのですが、苦小牧市でも土地利用の届出とか、積極的に受け入れるとか、そういうことはできないのでしょうかね、というお話です。以上です。

○司会 要望事項のそれぞれに関しまして、いつぐらいまでにというご質問でございましたが、1番目

から何かコメント可能でしょうか。

◎総合政策部長 皆さん、こんばんは。総合政策部の町田といいます。よろしくお願いします。

要望事項の目標年度ということですけど、まず、最初の1番、IRにつきましては、これは現在、国の申請が締め切られて申請ができない状況となっております。

ただ、皆さんご承知のとおり、大阪が認定されて、IR整備法におきましては3か所までという内容になっていますので、残り2か所がまだ決まっていない状況でございます。この2か所を今後、国が申請を受けるのかどうかというところは、まだ全く決まっていない状況でありまして、市としましても、その情報収集に現在努めているところでございます。

今後もし引き続き情報収集に努めまして、しかるべき時期にしっかりと、皆さんから支援していただいておりますIR誘致に取り組んでまいりたいと考えてございますので、ちょっと1番につきましては、目標年次をこの場でお示しできないことをご理解いただきたいと思います。以上でございます。

◎まちづくり推進課長 こんばんは。まちづくり推進課の前田といいます。

要望番号の2番、市街化調整区域の見直しについてお答えさせていただきたいと思います。まず年次、いつぐらいかというお話だったかと思えます。

今回この2番の要望としては、2か所の要望があったかなと思っています。まず一つ目の星ヶ丘地区、平成28年に地区計画をつくったと。今回の内容としては、植苗駅に向かう範囲も同じ制度で広げられないかというお話だったと思います。

年次としては、いつということのお約束はなかなか難しいのですが、お答えにもちょっと書かせていただいたとおり、星ヶ丘の、今、平成28年に区域指定した範囲、道営住宅も今年度で4期目が終わるというふうにお伺いしています。それ以外にも一般の住宅が数軒建っているというのが今の状況になっておりますので、そこがより進んでいけば、遅れないように、先行して地区計画の区域が拡大できるように、北海道と協議ということになりますので、そこは、協議は継続して今までもやっているのですが、改めてお話をさせていただいて、そこが遅れないように、対応できるような取組をしていきたいなというふうに思っています。

もう1点、国道36号の沿線についてでございますけれども、お話しいただいたとおり、ラピダスが2025年にまず1つ目の工場を造ることが発表されていて、従業員さんがいらっしやると。千歳市はかなり住宅の需要が高まっているというところは私たちも聞いているところです。苫小牧市としても、隣町になりますので、ラピダス社本体だけでなく、いろいろな関連企業が広がってくるということは伺っています。

先行してやっている熊本県なんか関連する企業がかなり広がっていて、住宅の不足の状況が広がっているという話も聞いているので、苫小牧もそういう、ラピダス社だけではなくて関連企業の工場立地ですとか、あとはその従業員住宅というところは取り組んでいかなきゃならないところかなと。

苫小牧だけではなくて、東胆振の定住自立圏構想というものの、我々のほうで結んでいまして、安平さん、それから厚真さん、それから白老さんというところと提携を結んでいて、むかわさん

を含めて取り組みしていますので、それらの近いエリアで居住が広がるように。

我々としては苫小牧に住んでいただきたいという思いが強いのですけれども、特にやはり植苗地区というのは近い、近接性が高いところだと思いますので、そういうところを、民間事業者さんが相談に来た際には、ぜひアピールしていきたいなというふうに思っています。

こちらもちよっと民間事業者さんの相手次第というところがあるので、なかなか年次的なお答えできないということでご理解いただければなと思います。よろしく願いいたします。

**○まちづくり推進課主幹** 苫小牧市で公共交通を担当しております村上と申します。要望番号の3番、快速列車の苫小牧市への乗り入れについてお答えさせていただきます。

まず、快速列車の乗り入れなのですけれども、苫小牧方面の乗り入れは、空港利用者の利便性向上、観光客への効果といったように、アフターコロナを見据えると非常に高い効果が期待されるところでございます。

令和2年度から、回答にも書かせていただいておりますが、最重点要望事項に位置づけて、国や北海道に要望活動を続けてございます。

一方で、実現のためには、苫小牧市だけではなくて北海道全体の機運醸成、これが最も重要となります。今現在いつまでに実現するというのは、なかなか明言できないのですけれども、できるだけ早い実現に向けて、地域の皆さんの協力を得ながら、粘り強く進めていきたいと考えてございます。以上でございます。

**◎維持課長** 4番目のカヌー問題を所管しております維持課の小田と申します。

カヌー問題に関しましては、これまでも幾度とまちかどミーティング等でご指摘いただいておりますが、なかなか解決に至っておらず、ご迷惑をおかけしており申し訳ございません。

私どもといたしましても、先ほど・・・さんからもお話をいただきましたけれども、・・・さんのところのように、ルールに基づいて営業していただいているところもあれば、先ほどご指摘あるように、なかなか応じていただけないという方もおられまして、これも幾度とお話しさせていただいているのですが、いまだに、なかなか首を縦に振っていただけないと、そういったような状況でございます。

我々といたしましても、やはり地域の皆様の声と市の考えというのは一緒に、これまでもお伝えしてきているのですけれども、引き続き、いつまで解決ということはなかなか、相手がいらっしゃるものですから、なかなかいつまでというのはお話できないのですが、こちらにも書いてありますように、美々川の自然環境をどのようにして地域の皆様と市と、またはカヌーの業者さんとどう守っていくかということのを改めて、そういった視点からも今後お話を進めていきたいと思っておりますので、何とぞご協力、ご了承いただければと思います。

**◎市長** ラピダスについて、9月1日に、ラピダスはIIM（イーム）-1という工場とIIM-2という工場が計画しているのですが、IIM-1は既にもう今工事が始まっています。

2025年までにIIM-1の工事が完成して、その後2年間、2027年まで、IBMさんと提携しての先端半導体の工場、造る工場ですから、いろんなIBMからの技術移転等々も含めて、量産開始が2027年ということになっています。

これは2年間でIIM-1の工事を完成させるのに、非常にハードなところなのですが、これ国策、国家プロジェクトでありますので、多分スケジュールどおりにいくのではないかと思います。

9月1日の時点でラピダスには200人の採用が決まりました。そのほとんどはアメリカにいて、IBMから技術指導を受けています。最終的には1,000人ほどの採用者になるということ聞いています。

事あるごとに、一番最初ラピダスを訪問したのは6月、たしか15日だったかと思いますが、苫小牧市の東京事務所とラピダス本社が入っている事務所は徒歩3分ぐらいのところにありました。非常に近いところであってご縁を感じていますが、従業員の方が単身の方もおられるだろうし、外国人の方もおられるし、家庭、家族がそのままこちらに来る方もおられるし、その辺の動向、状況がまだはっきり分かりません。

やはり令和7年あるいは2027年量産開始ぐらいのときには、そうした計画が明確になっていくと思いますけれども、一度に1,000人ばつと来るのではなくて、徐々に増えていくということになるので、もう少し我々も時間の経過見ながら、そうした投資が苫小牧地域の活力、活性化につながるように頑張っていきたいと思います。

ちなみに、明日の昼前、ラピダスの小池社長と清水専務が苫小牧市役所訪問していただきます。これはそういう従業員の住居等の問題ではなくて、もっと別な目的のために来ていただきますが、そういった折々に、こちらのほうからそうしたお話を、お願いをしていくことになろうかと思えますので、もう少しラピダスが出てきてどうなるんだということについては、時間の経過が必要だというふうに思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

○司会 その他ございませんでしょうか。お願いします。

◆市民 いいですか。ただいま市長さんのお話を聞かせていただきましたが、この植苗・美沢地区は、飛行場の目下であり非常に危険にさらされている。苫小牧では一番、そういう点では恵まれていない場所を、みんなに言い含めて、やはり苫小牧市のために我々は協力をしてさしあげて、その見返りに、少しでも住みよい形にしてもらうようにするというので、これだけのものを出させてもらいましたが、お役所の方は、植苗のこの苦しみを何にも心にしない答弁でした。今の答弁は、そんな理由では誰でも言えます。

市長さんをお願いしたいのですが、もうちょっとこの植苗地区が、飛行場のためにどれだけ犠牲になって協力しているか、飛行機というのは着陸より離陸が事故多いのです。今まで6件もあったのですよ。この辺、事故が、この美沢・植苗地区、美沢地区がほとんどです。亡くなったアメリカの兵隊もおります。そういうのを我慢しながら協力しているのに、今の答弁、何ですか、市長さん、これでは困る。もうちょっと植苗のこと真剣に取り組んでいただきたい。

それと、もう一つ、すぐ時間なくなるからですけども、平成26年の11月30日、高橋知事が私のうちに立ち寄ってくれまして、そのときに、植苗の駅まで家を建てられるようにという了解をもらいました。これを役所の方が、俺が行ってきたとかなんかいうふうに、その道筋は私が言って頼んでいた。道筋もつけないでは誰もやれない、これをやったときに、役所の人たちはみんな俺が行ってやってきたという。そうじゃない、やはりやれる道筋をつけるのは誰かという。

ですから、そのときに、知事さんにあとはないですかと言われるけど、この植苗のそれは全部、細かいことみんなお願いしたら、みんな協議してくれました。あとはないですかと言うから、いや、実は苫小牧で一番困っているのは、東インターと西インターの間が随分遠いので、その間に支笏湖から流れている。あの頃は道道でしたけど、今は国道になりました。そこにインターを欲しいのですと言ったら、あっ、そうなのと言って、知事さんが私の言い分を受けてもらうことに対しては、こういうことがあって頼んだのです。

というのは、昭和19年だったと思います。戦後間もない頃に植苗の小学生、6年生の・・・という子供さんが、ああいうものに殺されてしまった。

その内容は、たまたまお母さんの健康が振るわなくて、家庭のこともできなくて、学校から帰りに沼ノ端の商店まで、植苗の学校から徒歩であそこまで行って、配給米を首に縛りつけたまま、今の植苗橋の手前の右側にあった一本橋を渡って50メートルほど歩いたヨシ原で殺されたのです。

そのときの危機管理に、警察官に呼ばれて、南部の会長と私、戦地から帰ったばかりの若者でしたから、若者代表で立ち会いました。そのときに、その・・・さんという子が、本当に体のがっちりした子で、配給米を首にくくりつけたまま亡くなっていました。

そのときに、顔にヨシの葉もいろいろくっついたり、もう本当に無念の涙を流された。あの涙もそのままにしてあったから、警察官に私は抗議した。警察官、人でないのかい、自分の娘であれば、こんなことをしておけるかいと警察官に言いました。どうしていくか、このかわいそうな姿、俺は見れない。私、手持ちのタオルで全部顔も拭いてあげて、折り返してそのタオルかけて帰ろうと思ったら、なかなかその子供の思いが胸につまされて、その場を立ち去ることができませんでした。

それでこの子の思いをどこかで、何とか社会のために果たしてあげたいと思ってお願いしたのが、中央インターです。

中央インターを植苗南町内一同でお願いしたことにはしましたけど、・・・さんの思いをそこに、60年かけて歩いてきました。彼女もきっとその思いは心にしてくれていると思いますが、こういう植苗地区は、そういうことを含めて、市長さんに知っていただきたくて、一言申し添えます。

今日はいろいろと植苗のために、それから、この中央線のことも植苗地区は一生懸命やっていますから、どんどんやっていただきたいし、ただ、役所の方は役所面をするだけで、もうちょっと身に入れて答えを出してほしい。会合に行っても、全部自分は言って、副市長も来ているのに副市長に言わせないで、自分が答弁して、非常に聞きづらい。以上です。

◎市長　・・・さん、木村副市長に代わっておわびをしたいと思いますが、今の思いは十分、以前からも聞いてきました。

ただ、ご理解いただきたいのは、例えばIRの問題にしろ、あるいは地域に住宅を建てる場合に、これが市だけで決めることができない。あるいはJRの問題もそうだし、カヌーも河川管理者は北海道でありますので、そうした場合に、例えば植苗橋は市の決断でできたので、すぐつけることが、改修することができた。そこはぜひ、市だけで結論を出すことができないということをぜひ

ご理解いただきたい。

中央インターは、もう本当に・・・さんの思いで、開通式のときも市民会館大ホールで・・・さんにも出ていただいて、本当に感謝をしています。

これは非常に難しい、道路公団のときは、地方都市は一つの都市に二つ以上のインターチェンジは造らないという内部規程で言っていました。それが民営化、NEXCOになって、苫小牧は3か所目ということではありますが、そうした背景も、植苗の皆さんのおかげだというふうに感謝しています。

これからやはり植苗の位置づけが、この十数年で随分変わったことも事実であります。

そういう観点で、ラピダスの問題とか、あるいは苫東に決まるかどうかまだ分かりませんが、ビッグデータセンター、もう3年前からずっと誘致目指してやっています。北海道全体に先端半導体とデータセンターができるということになると、北海道のイメージが変わっていく。

そういう意味で、やっぱり次の世代、これから生まれてくる新しい市民にも地元でチャレンジしてもらえそうな、雇用の機会をたくさんつくっていかねばならないというふうに考えておりますので、今日の今の・・・さんの思いは我々の胸に、これからこの地域の発展のために取り組んでいきたいというふうに考えています。

◆市民 これはIRの場合、市長さんが最初に話されて、今の話であると、まだ国が決めないというのですけれど、今の国も何だか分からんことに、出したりいい子ぶったりしている。この際に、北海道はこうだよといって、今の鈴木知事さんが高橋はるみ参議のお祝いの席に来て、今はできないけども、7年後には何とか動いてあげるとい言葉が私の耳に入って、それが、もう来年で7年目です。それ言ったときから。

だから、今やっぱり苫小牧市としては、鈴木知事さんをどんどんあれして、私も連れていってください。ステージでは何ぼでも言えます。手紙も何回も書いているし、あちらからお礼状ももらっている。

何としてもやはりIRは、岩倉市長さんの最初のお願ひ、希望ですから、それを実現してさしあげるのは、我々苫小牧市民の力だと思っています。どうぞ苫小牧市の職員一丸となってIR誘致に動いてもらうことを希望します。以上です。

◎市長 大変ありがたい思いで、これからの北海道あるいはこれからのこの地域を考えたときに、先端半導体の工場ができる。私はこのことが、やっぱりIRという装置ができることにもっと価値が出てくるというふうに考えておまして。

鈴木知事とも1対1で話したときは、決して否定的なことは言わないですが、なかなか決断をしていただけない状態が続いていますが、今チャンスなんですね、長崎が恐らくもう駄目ですね、大阪決まって、やっぱバランスが必要なので。

一生懸命頑張っていきたいと思ひますし、僕は市長選で3回にわたって統合型リゾートを公約に入れて選挙戦戦っていますので、その公約実現に向けて皆さん方にもご協力をいただきながら、しっかりチャレンジをしていきたいと思ひています。

◆市民 皆さん、どんどん質問してください。

○司会 お願いします。

◆市民 南町内の・・・です。今日は市長さん、市の副市長さん来ていただき、私は二つほど言います。

一つは、去年も言っていますから、この四つのことに関連すること。一つは、今日のテーマに関連することなんですけれど、私個人的には、この苫小牧というのは公共物の木造化というのがほとんどないなと思っております。

国、道も推進しているはずですが。学校等をオール木造で造る。苫小牧はどういう考えか分かりませんが、そういうコストの面から見たのか、ないですけど、それを今、私の見た限りではできてないのかなと思っております。

もう一つは、市長さんに去年も来たとき、私、質問していることなのです。土地利用計画です。この四つの問題がみんな入っている問題です。

やっと動き出したのが、たった一回の委員会です。それで2月までまとめるって言っていますが、私は地域の丁寧な意見を求めるなんて、市長さんの部下の方には大変申し訳ないけど、できないのではないかなと思います。たった一回ですよ。

2月に取りまとめるなんて言っていますが、その中に全部、この今の四つのことが入っているはずですが。カヌー問題、前の土地利用計画でこれの、入っていたからやったと言っています。それも全然解決できてない。

土地の、住宅建てれる調整区域の見直し、これも人口減少だからそんなのあり得ない。地域の要望を丁寧に聞くと全然裏腹な、こういったことであります。

先日何かうちの友の会と懇談したとき、子供たちのために、通学のための循環バスとか言っていますが、隣の市はもう、千歳市は循環バスやっていますから、苫小牧はどんな形でも取り組む気があるかどうかですね。

それと快速問題です。これもやる気がないからできないのです。岩見沢から札幌は昔から快速走っているのですよ。だから、ここを、快速って意味が、一部、前にはオール電化になっていませんでしたから、これは無理なことだったと思います。

だけど、もう少しスピード感を持ってやってもらいたいと思うし、このラピダスの件も、情報の提供が遅いなと僕は思います。

私の会社は一つ、ラピダスのとこでやっていますから、とっくに分かっていたし、そういうことは、なぜここに来るかということも聞いていましたし、こちらの情報よりは僕らのほうが知っていたかなと思っております。

だから、この土地利用計画をきちっと決めていただかなければ、これ全てが、全部入っていることですから、もう少しスピード感を持って、たった一回の会議で2月にまとめるなんてあり得ないと思うし、この後何もタイムスケジュール出しませんから、これでは地域からの意見を要望してまとめるなんて到底無理じゃないかなと思っています。

これらの四つの問題、みんな入っていますから、土地利用計画。IRの件も、みんなそうですから、この前言っている新千歳の二次交通の問題もこれに入ると思うのですけど、それも取り組もうとしているかどうかは、ちょっと分からないなど。回答は後日で結構です。以上です。

◎市長 いや、一つは、土地利用計画の問題については、法律に基づく、規定に基づくプロセスが必要なので、我々も多分同じような気持ちなんだろうけど、そこはある意味、コンプライアンスで、そこを無視して市が勝手にできるような問題ではないということだけは覚えておいてほしいなと思います。

◎空港政策課長 空港政策課の伊藤と申します。植苗の土地利用計画のお話がありました。

この計画については、平成12年に計画がつくられ、20年計画になっておりまして、数えていきますと、令和2年にこの計画終了しております。

我々、今の計画を検証しつつ、次の計画どうしようかということで、地域の皆様とようやく話し合いができる状況にまでなったということで、本年の8月には、植苗・美沢エアカーゴ対策委員会で我々の素案をお示しをさせていただき、今月の5日には、先ほどお話ありましたように、植苗青年友の会の皆様にもお話をさせていただき、様々なご意見をいただきました。

我々、令和5年度中にこれを、計画を策定させていただきたいというふうに思っておりますので、今後、今、エアカーゴ対策委員会では一回というふうになっていましたけども、今後、回を重ねて、スピードを上げて皆様の、地域のご意見をいただきながら、しっかりと作り上げていきたいというふうに思っております。

今・・・さんがおっしゃっていましたが、IRですとか、JRの問題、それからラピダスの問題、二次交通の問題、様々その計画に入っておりますので、そういったことを実現できますように、しっかりと計画のほうは策定をさせていただきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

○司会 一番最初にお話がありました公共施設の木造化というところにつきましては、よろしいですか。

副市長、お願いします。

◎副市長 副市長の木村でございます。・・・さんのほうから公共施設の木造の活用ということのご質問だったと思います。

どうしても公共施設、耐震化等々を考えるとRC構造ということが主流になるんだと思います。

ただ、これから造る樽前小学校なんかは木造を生かした建物を今、来年度建築に向けて計画しておりますし、やはり北海道ですから、木造ですね、いろいろ使った部分というのは、ほかの町でもいろいろと出てきていると思いますので、私たちもその公共施設の種類によって木造を使える部分については、木を使った建物というものも考えていきたいなと思っておりますし、そうしたぬくもりのある木の建物というものも、子供たちにとっても大人にとっても、そこはやっぱり懐かしさといいますか、木のよさというの、私たちも十分、分かっておりますので、いろいろと公共施設を設置するに当たっては、どういったものかというのはいっしょに考えた上で、建築は今後も進めてまいりたいと思っております。

◎市長 東開文化サロンなんかでも結構木使っているでしょ。それとか、最近の幼稚園なんかの改築なんかのときにはすごい木使っている。規模はそんなに大きくないけど。

◆市民 言った意味は、最初の今日のゼロカーボンのテーマだったら、いや、二酸化炭素を吸収するのは木なのです。そして酸素を出すのは木なのです。

カーボンクレジットというのは、この木造の建物でもカーボンクレジットになるのですよ。その意味を、釈迦に説法じゃありませんけど、あえて言う必要もないなと思ったから言わなかったのですけども。

ここだってかなり木を使っています。それでモニュメント、あそこの、多分苦小牧の施設にはないと思う。あの・・・さんのあれは。

だけど、やはり苦小牧全体見てまだまだ、ハイブリッド工法の木材もありますし、木材のビルもありますから、ヨーロッパはみんな木材にもなっていますし、そこら辺をぜひ少しでも、樽前小学校さんができるというから見させてもらいますけど、僕の言った意見で道立高校何か所も建てたって、道の連中が言っているのですよ。だから、できないことはないのです。値段は違うかもしれませんが。

ぜひ市長さん、よろしくお願いします。

◎市長 コストは許容できる範囲で。国では農水省から、与党・自民党は、毎年のように、国の公共事業で木質が何%使っているかというのをデータ化させて、それが右肩上がりにはなっているのだけど、それが微々たるもので、国のほうも結構そういう公共施設の中に木質系を増やそうという取組は、もう20年前からやっていることなのですね。

特に、これ直接関係ないけど、この辺の木材は、戦後の日本の、関東の復興を支えてきた山なので、そういういろんな思いの中で、やっぱりゼロカーボンも含めて木の効用というものは、これからどンドンどンドン、いろんところで話が出てきているし、これからも多分出てくるんだと思いますね。ただ、コストだけ何とかしてや。

◆市民 私、自分がこういう仕事やっているから言うわけじゃないですけど、紙のまち苦小牧というのは木から使うのですよ。今、紙の中で一番右肩上がりなのは、我々の用語で板紙なのですよ。これ段ボールです。ご存じのように、これアマゾンとかなんとかの通販ですから。

ですけど、紙のまち苦小牧が木を使わないというのが、僕はどうも解せないから、こういうことを言っているのです。確かにコストは高いのは事実ですけども、そこら辺は、お金の捻出は市長さんがやっていただくようにしていただいて、何とか農水省に協力していただきたいと思えます。以上でございます。

○司会 その他ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、意見交換のほうは、ここで終了させていただきます。

それでは、まちかどミーティングの終了に当たりまして、会長からご挨拶をいただきたいと思えます。

よろしく願いいたします。

◎市長 いや、・・・さん、座って。

◆植苗町内連合会長 今日は役所の方、報道の方を含め、市長さん、副市長さんを囲んで皆さんのご意見を集約していただいて、何とか先を、少しでも明るくなったかなと思っております。

どうか皆さん、苦小牧発展のために全力で協力しますことを誓いながら、今日の会合のお礼とさせていただきます。どうもご苦労さまでした。ありがとうございました。

○司会 会長、ありがとうございました。

続きまして、岩倉市長よりご挨拶いたします。

◎市長 もう間もなく8時でありますけれども、いろいろ声を聞かせていただきましてありがとうございました。

ここに来ると、やっぱり地域愛、あるいは地元愛ということをひしひしと感じながら、いろいろな話を聞かせていただいております。そうした思いがこれからの植苗地区、あるいは美沢地区の発展につながっていくように我々も一生懸命汗をかいていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ引き続きこの地域のために何かありましたら、声を届けていただければというふうに思います。

すぐできることはすぐやりますし、できないことは時間がかかりますというお話はすることもありますけれども、しっかり声を届けていただければなど、何かあったら全て柴田に言ってもらえば伝わるようになっておりますので、よろしく願い申し上げまして、最後のご挨拶に代えさせていただきます。

今日はありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。